

トワーム通信第46号

医療法人社団松弘会
介護老人保健施設トワーム熊谷
埼玉県熊谷市小曾根337-1
TEL: 048-599-3377

2024年4月発行

窓口営業時間変更のお知らせ

令和6年4月1日(月)より平日の窓口の営業時間を17時45分までとさせていただきます。入り口の自動ドアも17時45分には施錠致しますので、洗濯物の持参など、17時45分以降に来所される場合は、インターフォンを鳴らしてください。フロア職員が対応させていただきます。

ご不明な点などございましたらお問い合わせください。

外出・外泊再開のお知らせ

大変長らくお待たせいたしました。令和6年4月1日より下記の通り外出・外泊を再開させていただくこととなりました。今後の新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染状況によっては再度制限させていただきます場合がございますのでご了承下さい。

【外出可能時間】

10:00~17:00(土日祝日問わず)

【注意事項】

- 外出・外泊ご希望の場合は、前日の午後5時までに施設にお申し出ください。それ以降の連絡については、食費の請求をさせていただく場合がございます。また、外出・外泊時は所定の届出用紙へご記入をお願い致します。
- 外出・外泊時に医療機関へ受診する必要がある場合や、お戻りが帰設予定時間を過ぎる場合は必ずご一報ください。
- 外出・外泊時には介護サービスの利用はできませんのでご注意ください。
- 感染予防の為、可能な限りマスクの着用をお願い致します。



開設当時からこれまでトワーム熊谷の厨房業務は「グリーンハウス」さんに業務委託致しておりましたが、令和6年5月1日(水)より、厨房業務を自主運営することとなりました。今後は今まで以上に「トワーム熊谷の食事は美味しい!」と思って頂けるよう職員一同力を合わせて、利用者様のお食事を準備させていただきます。また、今後は「ナリコマ」と提携し、クックチル調理法を導入することとなりました。これまで以上に衛生面でも安心・安全な食事を提供し、引き続きサービス向上の為に鋭意努力して参ります。皆様方には何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



デイケアで【コーヒー教室】を始めました。10名様限定のスペシャルなレクリエーションです。2種類の豆を挽き、まずは香りを楽しみ、次に一口すすってコーヒーの飲み比べをしました。今回はキリマンジャロとウーマンプロジェクトコーヒー ブラジルパッセイオ農園の豆をテイasting。凝縮されたコーヒーが舌の上に広がりました。

参加できなかった方からも『良い香りね。』とお声がかかり、コーヒーアロマを楽しまれました。初の試みでしたが大好評だったので、来月もコーヒー教室を2回開催予定です。是非ご参加ください!



コーヒー教室
始めました



男飯



令和6年3月13日(水)に男性利用者様と行う、調理レクリエーション【男飯】を開催しました。ちくわの射込み、焼売、枝豆などなるべく簡単な調理工程で出来るものになりました。ちくわの射込みは、利用者様にもお手伝いをして頂き、きゅうりやチーズ・カニカマなど、皆さん上手にちくわに入れていました。さらにご希望された方にはノンアルコールビールを提供し乾杯しました。ノンアルコールとはいえ、本物に近いビール風味の炭酸飲料が大盛り上がりでした。また、枝豆のあまりの美味しさにおかわりをする方も多くみられました。終了後も「またやって欲しい」との意見も多く聞かれ、皆さん満足されたようで、結果は大成功でした!!



認知症予防ゲーム紹介

認知症予防ゲームは、『A明るく A頭を使って A諦めない』のスリーA方式と呼ばれています。それでは具体的に一部ご紹介いたします。

【記憶の継続訓練・手指の屈伸とリズム感】

①1から10

両手を上げて前に出して指を折りながら声を出して数えます。指を動かすことと数を数えること2つを同時に行う事が脳の活性化につながります。段々スピードを上げていきます。

②グーパー体操

右手をパーと前に出して左手はグーで胸。次は反対で行います。

③でんでん虫

チョコキの上にグーをのせます。左右を反対にして交互にのせます。これをでんでん虫の曲に合わせてリズムカルに行います。

④グーチョコキパー

グーチョコキパーと順番に出していき段々スピードを上げていきます。その次にはグーチョコキパーを行いながら腕を前に伸ばしていきます。

これらを月に1~2回レクリエーションの時間に行っています。ご利用者様は歌いながら笑顔でかつ真剣に参加して下さっています。



施設長 矢島の独り言

鎌倉 円覚寺の先々代住職 朝比奈宗源老師(1891-1979)が亡くなって45年になります。最近宗源老師の本が復刻されました。「覚悟はよいか」(ごま書房)と「仏心」(春秋社)です。朝比奈老師は明治24年生まれ、4歳の時に母を亡くし、7歳の時に父を亡くされました。両親は死んでどこに行ったのかを求めて10歳で出家されました。座禅をしてこの問題をはっきり解決することが出来たと書かれています。「生死事大:生あるものはかならず滅する。そんな道理は誰でも心得ている。心得ているながらのんきに構えている。こんな大胆なことはない」といっておられます。

「覚悟はよいか」は昭和53年(老師87歳)に初版です。亡くなる1年前に口述筆記されたもので、予備知識がなくてもすらすらと読めると思います。「仏心」は昭和34年(老師68歳)初版です。老師が折にふれているいろいろな雑誌に執筆した記事を出版社のすすめに応じてまとめたものです。「人は仏心の中に生まれ、仏心の中に生き、仏心の中に息を引きとるので、その場その場が仏心の真只中である」という難しい内容をいろいろな角度から説いています。ご参考までに、「仏心」の本文(p142-143)からそのまま引用させていただきます。

「仏教の信心では、人は誰でも仏と同じ心、すなわち仏心をそなえていて、その仏心は、お釈迦様がお経におしめしのように、生まれることも死ぬこともなく、けがすこともきずつけることもできない尊いものであります。またそれは人の利口とか馬鹿とか、学問があるとかないとか、品行がよいとかわるいとかにもかかわりません。人にはそういう尊い仏心があるのであります。

この仏心を生きているうち、よく明らめた人が仏さまや祖師方ではありますが、たとい自分で明らめないでも、この道理を信じて疑わず、人間はそういう尊いものであると思つてつまらない迷信に走らず、生きている間は、できるだけ善いことをし、悪いことをつつしんで暮らし、死ぬるときは、その仏心にたしかえるのだと思つて、安心して死ぬのが肝要であります。」

